

頌栄

No. 123

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



神の選ぶ断食（イザヤ書58章）

牧師 清弘 剛生

イザヤ書五十八章が描き出すのは、バビロン捕囚から帰還した人々の姿です。彼らは決して非宗教的な民族ではありませんでした。むしろ捕囚からの解放後、宗教的なことには非常に熱心だったのです。神殿祭儀を盛んに行い、敬虔な業に励む彼らは、外から見ると熱心に求めている人たちに見えたことでしょう。

しかし、彼らの宗教生活には深刻な問題がありました。「内容の伴わない敬虔さ」です。彼らは熱心に「断食」を行いつつ、一方で共に働く人々を追い使い、争いの中に留まり、そして「何故あなたはわたしたちの断食を顧みず、

苦行しても認めてくださらなかったのか」と不満を口にしました。要するに断食しても自分の願いが叶わず、思い通りに進まなかったということでしょう。そのような言葉に、既に彼らの「敬虔さ」の問題がはつきりと現れていたのです。

そんな彼らに主は言われます。「そのようなものがわたしの選ぶ断食であろうか」。神が求めておられるのは、単なる儀式やしきたりではなく、「日々わたしを尋ね求める」とです。それは礼拝の時だけでなく「毎日」のことです。「毎日」のことに、その人の内にあるものが現れてくるのです。

神の望まれる断食とは、悪による束縛を断ち、虐げられ

た人を解放し、飢えた人にパンを裂き与え、同胞に助けを惜しまないことだ、と主は言われます。かつて捕囚の民であつた彼らを、神は憐れみをもつて赦し、解放してくださいました。断食をするならば、まさにその神の憐れみを思い起こさねばならないのです。神の憐れみに対する応答から、隣人との関わりが新たに始まります。神が憐れみ深くあるように、私たちも憐れみ深くあること。その具体的な歩みこそが、神の望んでおられる断食に他なりません。そこにこそ「そうすれば、あなたの光は曙のように射し出でる」との約束が伴っているのです。

このレントの期間、主の憐れみに応える「毎日」の歩みを、共に祈りつつ求めてまいりたいと願います。

（灰の水曜日礼拝説教より）

レント・イースターを覚えて

伊藤 眞子

今年は、二月一八日にレントに入ります。主の受難、十字架を覚える時です。

私は、小学生の頃に、教会学校に導かれ、「神さま大好き、イエスさま大好き」と、素直に信じて、悩みなく過ぎてきました。ところが、夫が教会に仕えるようになり、色々な方の苦難を乗り越え信仰を得た証しに接すると、自分の信仰が本物かどうか、「私は、救われているのか・・・」不確かになり悩みました。自分に「罪がある」とは、傲慢にも思っていないかった事に気が付かされました。そこに罪があったのです。しかし、十字架の主が、「そのままの私」を受容し、共に歩んで下さる事を実感し、不安から解放されました。

イースターの日は、「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」と、定められており満月との関係があるので、

日が替わります。

イースターはイエス様が十字架に架けられた日から、三日目と言われていますから、主の受難と十字架を覚える悲壮な思いから、復活の喜びで一変する劇的な展開の日になります。

カレンダーのない初代教会の信仰者たちは、満月を待ちワクワクしながら、イースターを迎えた事でしょう。今回、この思いが、私にも伝わってきました。

六〇年以上になった私の信仰生活で、印象深いイースターの思い出は、クリスマスに洗礼を受けた翌年、早朝六時に鎌倉の海岸で、輪になってイースター早天礼拝を捧げ、薄暗い頭上の雲に朝日が差し込んできた光景、正に希望の光を感じました。

二九年に及ぶ静岡では、毎年、市内にある小高い山の東屋で、イースターの早朝祈禱会を持ちました。祈禱会後に「イースターおめでとうございます♪」と、喜びの声を交わします。

東屋までの百段以上ある階段、山道を手分けして大荷物を運び、準備した

ポットでコーヒーや紅茶を淹れ、朝食代わりにパンや菓子を食べ、大荷物の苦勞も忘れる楽しい恵みの時でした。イースターは、三月下旬から四月中旬のいずれかになりますから、年によって満開の桜の中、花吹雪の中、また葉桜の中、と風景も変わります。

しかし、変わらない駿河湾の海、眼下の町を目にして、明治初期の信仰者が「この町にキリストのご支配が成るように」と祈った事が歴史に残っており、先達の信仰が、脈々と受け継がれて行く事を願いました。

静岡が集まりやすいのは、自転車などで動ける地方都市だからかもしれません。都内に転居して、交通などの利便性の良さを感謝しつつ、逆に、集う事の難しい事も感じました。

コロナ禍で礼拝もままならなかった二〇二〇年、イースターの思いを表した映像の募集があり、清弘牧師が、それを纏め、パソコンで閲覧できるようにして下さったのを思い出します。これも、心に残るイースターでした。

11月～12月の行事報告

秋の公開講演会開催報告

伝道部

2025年11月30日、「世界はどこに向かつていくのか」と題し、秋の公開講演会を開催しました。

緊迫する世界情勢、高まる軍事緊張の中で私たちの進むべき道はどこなのか。教会員のみならず、誰もが関心のあるテーマを、日本経済新聞本社コメンテーターである秋田浩之兄にお話いただきました。

(5) 世界各地での幅広い取材を基にした情報をわかりやすく解説いただき大変好評でした。聴衆は、地域の方も含め50名ほど、活発な質問は講演会後の歓談会でも続くほどでした。中には池ノ上に住んで20年、初めて頌栄教会に足を運んだという方もおられ、歓談会で清弘牧師も含め教会員との交わりを持たれたことは大きな恵みでした。

今回は会場を頌栄教会とする講演会と銘打って地域掲示板、新聞折り込みで告知しましたが、先行きが注目される2026年、今後もみなさんが関心あるテーマで同様な試みを行うことも計画していきたいと考えています。



4月5日(日)

主のご復活を共に祝いましょう!

10:30 イースター礼拝〔聖餐式〕・祝会

18:00 イースター 夕礼拝〔聖餐式〕





いつも教会学校のためにお祈りくださり、ありがとうございます。

アドベントの期間、小学生たちは、礼拝の始めにアドベントクラントの点火の奉仕を行いました。「主を待ち望むアドヴェント」の賛美歌と共に、ろうそくを手に子どもたちが礼拝堂に入ってくる時間は、奉仕する子どもたちだけでなく、大人にとっても喜びのひと時となりました。



12月21日のクリスマス礼拝・祝会の後、午後2時から、「こどもクリスマス」を行いました。幼児から中高生までの子どもたちが聖書の朗読と賛美によってクリスマスの物語をつむぎました。

この日のために、子どもたちは8月よりクリスマスの学びと準備を進めてまいりました。今年度は子ども的人数が少ないなどの理由から、今までのように子どもたちが劇で役を演じるという形でのページェントは致しませんでした。今までのように「子どもと大人が共に神さまにささげる」とを大切にしました。

今年度は特に「神さまにささげるものを心を込めて準備すること」と共に「クリスマスのメッセージを子どもたちに伝えること」を大切にしました。時間をかけながら丁寧に準備したことと、子どもたちにとってクリスマスの意味をよく理解できる機会となり、イエスさまをより身近に感じることができたことを感謝しています。

1月に入ってからからの礼拝では、大きな風の音に負けない、子どもたちの大きな賛美の歌声がとても印象的でした。小学生も中高生も礼拝にも各クラスにも主体的に参加しています。これからも子どもたちの信仰が成長していくように、どうぞお祈りください。また、幼児連れの親子が来会できるように、また、新しい子どもたちが与えられるようにもお祈りください。

成人クラスも参加者が増え、豊かな学びと交わりのひと時となっています。ぜひご参加ください。

